

後醍醐天皇行在と船上山合戦

今から680年ほど前の鎌倉時代、奈良の吉野を根拠とする後醍醐天皇の南朝勢力と京都に幕府を置き光厳院を擁立した北条氏の北朝勢力との対立抗争から、元弘の乱が起きたが、天皇親政を願い再三の討幕計画に失敗した後醍醐天皇は、元弘2年(1332年)3月7日、隠岐へ配流となった。

なおも、討幕をめざす後醍醐天皇は、元弘3年(1333年)閏2月24日未明、折からの風雨をついて隠岐を脱出。後醍醐天皇は、名和の豪族・長高(のちの長年)一族に守られながら天然の城塞をなした船上山に籠城した。

この時、天皇の警護にあたっていた隠岐の判官、佐々木清高は、2,000余騎の軍勢を率いて船上山東坂(現在の登山道)に攻め寄せ、弟の清秋は1,000余騎の軍勢で、西坂より攻め寄せた。

友軍が少ない名和軍勢は、天然の城塞をなした船上山の地形を生かし、切り倒した木を逆さにして茂みを作り、木間に鎧(よろい)や甲を着せた偽兵を置くと共に、その中に少しずつの武士を配置。さらに、近郷より集めた500反の白布に、松の葉をいぶして作った墨で、近国諸豪の家紋を書いた幟(のぼり)旗を木間に立てかけ、あたかも近国の武士が応援に来たかのように見せかけ、佐々木軍勢の攻撃に備えた。



F 鱒返しの滝

鱒返しの滝の上部は広いテラスになっており「一枚岩渓谷」と呼ばれている。船上山を縦横断する県道から500mほど谷沿いの遊歩道を登ったところにある。展望台から見るこの滝は、春は新緑、秋は紅葉の中から流れ落ちる水しぶきが映え、絵に描いたように美しい。また、夏には滝のまわりを川沿いに歩くと、岩肌を流れる水の音が心を休ませてくれる。

滝めぐりコース①

所要時間 片道 約30分

鱒返しの滝入り口

500m 約30分

滝見台

船上山の施設



さくらの里

地元集落で運営。
手打ちうどんの味が好評!

☎ 11時~14時 ☎ 月・火曜
☎ 0858-55-7007 ※団体は要予約
営業期間:4月中旬~11月
※夏期不定休

鳥取県立 船上山少年自然の家

船上山のふもとにある宿泊研修棟、体育館、キャンプ場などを備えた研修施設。5人以上であれば家族単位の利用もOK!

☎ 通年 ☎ 月曜・祝日・年末年始
申込み ☎ 0858-55-7111
FAX 0858-55-7119
※必ず10日前までに申込みを完了してください。

「船上山」を語る史跡たち

A 屏風岩と千丈滝

船上山の東側は、山腹一帯にわたって約100万年前に形成された一大屏風を引きまわしたような柱状節理による溶岩壁(両輝石安山岩)が延々600mにも及ぶ。さらに、屏風岩の南には、垂直に切り立った高さ100m余りの岩場から、勢いよく流れ落ちる雄(おん)滝と雌(めん)滝があり、この2つの滝を千丈(せんじょう)滝という。



平成25年4月に完成した山頂の休憩舎には、トイレや休憩スペースがある。



滝めぐりコース②

所要時間 片道 約60分

東坂登山口→横手道

400m 約50分

雌滝

50m 約10分

雄滝

山頂コース

所要時間 片道 約60分

東坂登山口

1.0km 約45分

山頂休憩舎

300m 約15分

船上山神社

B 船上山神社と智積寺(船上山の寺院と神社)

船上山は、智積寺に伝わる略縁起が彫られた版木(町指定文化財)によると、今から約1300年前智積仙人が開山したと伝えられる。船上山の古い時代の寺院は「船上山寺内分限記」にある金石寺(こんじゃくじ)といわれ、承和6年(839年)鋳造で伯耆国金石寺などの銘のある梵鐘が、数々の変遷をへて福岡県内に国宝として残っている。

後醍醐天皇が即位された文保2年(1318年)には、金石寺(?)の僧、良賢によって五輪塔が建立された。(現在には銘の地輪のみ残る町指定文化財)その他、一の木戸付近には僧の墓と思われる五輪塔が多くある。

船上山合戦の際には、最初、この金石寺本堂にたてこもり、3月2日の合戦勝利の後は、奥の院の北側に行在所をつくり、ここで、約80日間にわたって北条氏を亡ぼす戦いの計画を練ったと伝えられる。この間に鎌倉幕府はたおれ、船上山は「建武の新政」の要地となったのである。

その後、金石寺は南北朝の争乱により衰退して、室町時代後期の享禄3年(1530年)に智積寺として再興された。本堂は奥の院の左側の寺坊跡といわれている。しかし、智積寺も伯耆での毛利と尼子の戦いに代表される戦国時代の争乱と、太閤検地による寺院の没収などにより、文禄年間(1592年~1595年)に、山上の寺院を解散した。このとき残っていた寺坊の一つが竹内に下りて、後世に再び智積寺となった。

現在の船上山神社本殿は、昭和9年4月、船上山史蹟保存会の努力で再建されたもので、拝殿は、第二次世界大戦中に精神修養の道場として建てられた正道館の講堂を移築したものである。



C 船上山行宮碑

船上山山頂一帯を薄ヶ原といい、この東側にある小さい丘をお休み場という。後醍醐天皇が船上山に行在のときには、このお休み場で野立てをされたという。現在、このお休み場には、大正13年、鳥取県教育会によって建立された高さ3m70cm余りの船上山行宮碑がある。絶景を楽しむことができる。

船上山 周辺 スポット

天皇水

後醍醐天皇が船上山よりおくだりになり、大熊までおいでになると、にわかになどがかわいてきたあたりで水がない。そこで天皇がそばの大岩を起こすよう指差されたので、村人が力をこめて岩をおこすと清水がこんこんと湧いて出た。それからこの清水を天皇水と呼ぶようになった。(以西村郷土誌より)



D 650年祭と大鳥居

船上山が「建武の新政」発祥の地として歴史に名を留めてからちょうど650年にあたる昭和58年、650年祭奉賛会が設立され、広く浄財を募って記念祭や各種の記念事業が行われた。船上山大鳥居は、この記念事業のひとつとして建立されたもので、高さ8m、幅11mの威容を誇る。



E 万本桜公園とさくら祭り

昭和62年にむらおこし事業のひとつとして町民が八重桜を植栽。また、生活環境保全林事業によりサクラ、ヤマツツジが植えられ、散策の森や野鳥の森をはじめ、遊歩道、広場などが整備された船上山万本桜公園がある。毎年4月下旬には、遅咲きの八重桜が満開となり船上山さくら祭りが開催され、親子で船上山と桜を楽しめる。

